



第 53 回 (平成 22 年 9 月 8 日) 定例会の講演要旨

札幌の市街地西部山麓にあった温泉

道立地質研究所 所長 藤本和徳氏

温泉地質調査が専門の藤本講師は、冒頭、温泉の定義に言及(温度 25 以上か、水 1kg 中、1g 以上の溶在成分があれば可)のあと、現在札幌市内平野部には、69 本のボーリングにより、50 の施設が温泉として利用されている状況を説明された。

さて、札幌市民にはあまり知られていないが、明治から昭和にかけて市街地西部の山麓には、8 つもの温泉があり手稲金山の「滝の沢温泉」、本町「藤の湯」、富丘の「軽川温泉」を始め、中央部荒井山の南に「円山温泉」、円山と藻岩山の間には「札幌温泉」、「界川温泉」、「藻岩温泉」、「不老閣」等があったことなど、当時の北海タイムス、会議所等で発刊された写真、絵地図をスクリーン画像で、現場を踏まえて説明され、個々の温泉に関わるエピソードをまじえた講話に、深い感銘を受け、新たな知識を吸収しました。

特にこれら温泉の中で「札幌温泉」は、規模も大きく経営母体の「札幌温泉電気軌道 KK」が、市電を乗り継ぎ、温泉手前まで会社の電車を走らせた(昭/2 - 昭/7)との説明にはびっくり。

然しながら、これら「温泉」も、戦前戦後を通じ、浮き沈みも激しく且つ、周囲の環境条件に左右され、比較的短期間で消え去ったのは残念でした。

ところで、手稲に最も関係の深い光風館の「軽川温泉」、本町「藤の湯」周辺では、かの勇名を轟かせた「江連力一郎」ほか、当時賑わっていた手稲本町界隈の、様々な人達の、数奇な生き様なども紹介された。

さきに当会の、一の宮副会長、立花理事が「みどり亭」、「光風館」事件(資料提供)等の話題を提供、詳しく発表されているが、今回の講師の話と深くつながっており、意義深い限りでした。

当の藤本講師は、研究者の立場を超えて話題も豊富で、終わって茂内副会長も謝辞で話されたとおり、又の機会に講話をお願いしたい方の一人と、深く感じ入った次第です。

(文責：川崎吉充)



次回の予定

次回(11月10日)は、初代手稲区長 笥石雄氏の講演「手稲区誕生の頃を振り返って～区制 21 年目の手稲」を予定しております。また、茂内義雄氏の「年表に見える明治の手稲」を継続学習する予定です。

【お願い】

当日は、「手稲歴史年表」と前回配布された資料『手稲歴史年表』に見る明治・大正期の手稲』をご持参ください。

第 53 回定例会

前回(9月8日)の定例会では次のような研修が行なわれました。

1. 開会 新入会員の紹介 齊藤隆夫 会員
2. 講話 「札幌の市街地西部山麓にあった温泉」(上記記事参照) 道立地質研究所 所長 藤本和徳氏
3. 会員発表 「年表に見える明治の手稲」 茂内義雄 副会長
4. 連絡 研修視察「湯の里小金湯への歴史探訪」についての再確認(次頁写真参照) 茂内義雄 研究部長

”湯の里小金湯”への歴史探訪

= 札幌市内南区方面研修視察 =



本郷新記念札幌彫刻美術



水道記念館



エドウィン・ダン記念館



湯元小金湯



アイヌ文化交流センター



旧
簾
舞
通
行
屋



** 9月11日には、年度事業の一つである視察研修が行なわれました。これは、見学施設の記録です **